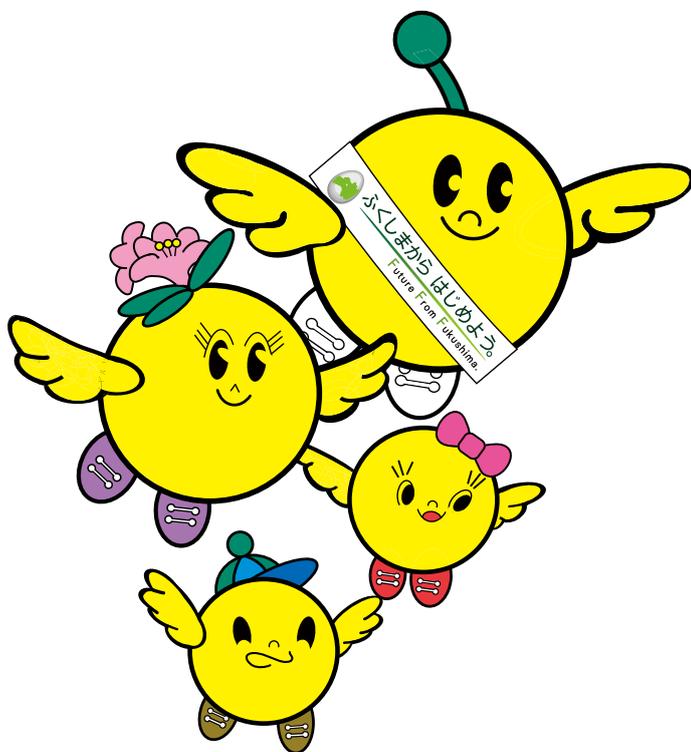


福島県東日本大震災子ども支援基金

事業報告書



福島県復興シンボルキャラクター
「ふくしまから はじめよう。キビタン」

福島県
〔令和2年度版〕

ご あ い さ つ



平成23年3月の東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故から間もなく10年の節目を迎えようとしております。

この間、国内外の多くの皆様から様々な御支援をいただいていることに対し、心から感謝申し上げます。

震災と原発事故後、前例のない困難な状況が続く中、本県復興のシンボルであるJビレッジの全面再開を始め、県産品の国内外での高い評価や、若い世代を中心とした移住世帯の増加など、復興に向けた明るい光が強まりを見せてまいりました。一方で、今もなお多くの方々が避難生活を続けており、避難地域の復興・再生、風評と風化、急激な人口減少、さらには一昨年台風災害からの復旧など、様々な重い課題を抱えております。

こうした中、被災した子どもたちを長期的、継続的に支援するため、皆様からお寄せいただいた「東日本大震災ふくしまこども寄附金」を活用し、保護者が死亡したり行方不明となった児童（遺児・孤児）に対する支援に加えて、本県の子どもたちが、様々な困難を乗り越え、心身ともに健やかに育つための施策に活用させていただいております。

本県に心を寄せてくださる全ての方々と力を合わせて、ふくしまの明るい未来を切り拓いてまいりますので、今後とも御理解と御支援をお願いいたします。

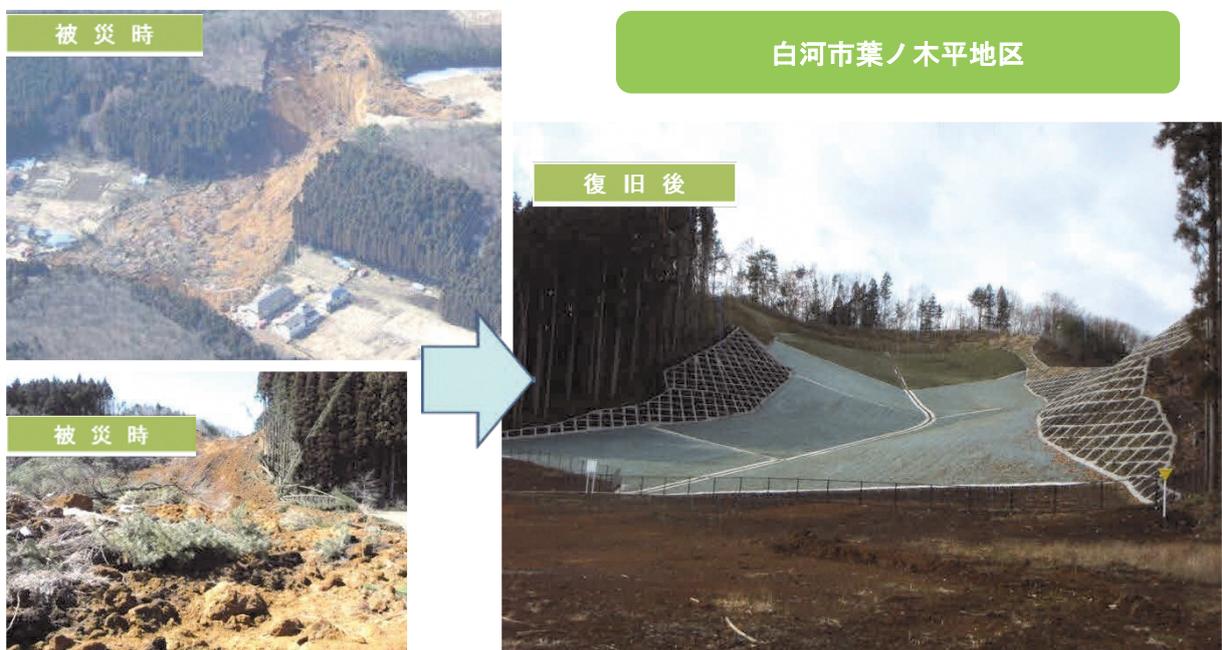
令和3年1月

福島県知事 内堀雅雄

福島県の発災当時の被害状況と現在

平成23年3月11日14:46に三陸沖を震源として発生した「平成23年 東北地方太平洋沖地震」は、マグニチュード9.0を記録し、観測史上最大の地震でした。

福島県では最大震度6強を記録し、激しい揺れとともに、広い範囲で大津波が押し寄せました。



本県でも、東日本大震災により、多くの子どもたちが親を失いました。加えて、原子力災害により、住み慣れた土地からも長期間離れなければならない子どもたちも多く、様々な喪失体験により、幼い心に大きな負担がかかっています。

そして、震災から間もなく10年の節目を迎えようとしておりますが、国内外の多くの皆様からのお力添えにより、幹線道路や防潮堤などのインフラ整備、避難地域における特定復興再生拠点区域の整備、避難指示が解除された地域での学校の再開や商業施設の整備、東京電力福島第一原発の事故収束拠点となっていたJヴィレッジの全面再開、福島イノベーション・コースト構想に係る拠点整備など、特に被害の大きかった県浜通り地域においても復興は着実に進んでおります。

一方でいまだに3万7千人を超える方々が避難生活を続けており、被災者の皆さんの生活再建、避難地域の復興・再生、廃炉・汚染水対策、県全体の産業振興、風評・風化の問題、更には急激な人口減少への対応など、本県は前例のない難しい課題を抱えております。

このような中、令和3年は本県でオリンピック2競技が開催されることになり、本県の子どもたちに大きな勇気を与えてくれるものと確信しております。

皆様からの善意の寄附をいただき、これまでも多くの子どもたちが夢に向かってはばたくことができました。これからも、子どもたちが震災前に抱いていたそれぞれの夢をあきらめることなく、着実に前に進んでいくことができるよう、大切に有効に活用させていただきたいと考えております。

「東日本大震災ふくしまこども寄附金」について

福島県では、平成23年8月から東日本大震災による震災孤児等への支援のための寄附口座「東日本大震災ふくしまこども寄附金」を開設しています。

○ 寄附の状況（令和2年3月31日現在）

寄附件数 18,351件 寄附額 6,546,730,163円

○ 被災孤児、遺児（令和2年3月31日現在）

- ・ 孤児：24人（孤児：両親若しくは単親の場合、現に養育していた親が死亡又は行方不明となった児童）
- ・ 遺児：180人（遺児：両親のうちいずれかが死亡又は行方不明となった児童）

「東日本大震災ふくしまこども寄附金」を活用した事業について

1 福島県東日本大震災子ども支援基金給付金

福島県東日本大震災子ども支援基金条例を制定し、東日本大震災ふくしまこども寄附金を基金に積み立て、東日本大震災により、保護者が死亡又は行方不明となった児童（孤児・遺児）に対して、生活及び修学を支援するための給付金を給付する事業を実施しています。

1 対象者 東日本大震災により保護者が死亡し又は行方不明となった児童

2 給付期間 大学等卒業までの期間

3 給付金の種類及び金額

(1) 月額金

ア 未就学児童	月額（孤児：30,000円、遺児：20,000円）
イ 小・中学校に在籍する者	月額（孤児：40,000円、遺児：30,000円）
ウ 高等学校等に在籍する者	月額（孤児：50,000円、遺児：40,000円）
エ 大学及び専門学校等に在籍する者	月額（孤児：60,000円、遺児：50,000円）

(2) 一時金

ア 小学校入学時給付金	30,000円
イ 小学校卒業時給付金	50,000円
ウ 中学校卒業時給付金	100,000円
エ 高等学校卒業時給付金	300,000円

4 給付実績（令和2年3月31日現在）

給付実人員 196人 総給付額 599,560,000円

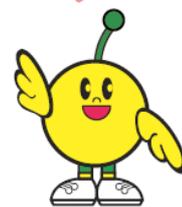
2 「ふくしまこども寄附金」による新たな支援について

平成24年12月県議会において福島県東日本大震災子ども支援基金条例の改正が議決され、震災孤児・遺児の支援に加えて、支援の対象を県内全域の子どもたちへと拡大し、下記の5つの視点から新たな支援を行っています。

〔新たな支援の5つの視点〕

- ① 災害・避難等により不便を強いられている子どもへの支援
- ② 子どもたちの将来につながる取組
- ③ 子どもたち及び保護者が元気になる取組
- ④ 子どもたちのふるさと福島への愛着心を醸成する取組
- ⑤ 子どもたちの本県復興への参画

次ページ以降で
紹介します





未来へはばたけ！イノベーション人材育成事業

1 事業概要

イノベーションコースト構想等の大規模プロジェクトを担うトップリーダー（理数系の人材）を育成するため、次の3つの事業を実施しました。

- ① 福島県算数・数学ジュニアオリンピック（算数・数学コンテスト）
- ② 科学の甲子園ジュニア福島県大会（理科コンテスト）
- ③ 未来を担うトップリーダー！先端技術体験

2 事業実施時期

- ① 令和元年10月20日（日）
- ② 令和元年8月6日（火）
- ③ 令和元年12月14日（土）～15日（日）

3 参加者数

- ① 1,174名（小学生701名、中学生473名）
- ② 117名（中学生39チーム117名）
- ③ 32名（小学生11名、中学生21名）



4 事業実施による効果

算数・数学、理科に関心がある児童生徒が論理的な思考力や科学的思考力を問う問題に挑戦する機会を通して、県内児童生徒の理数に対する興味・関心を高めるとともに、問題解決力の育成に役立てることができました。

また、「算数・数学コンテスト」及び「理科コンテスト」の成績優秀者を対象に1泊2日で開催した「先端技術体験」により、将来の夢の実現に向けた第一歩を踏み出すとともに、学習意欲を向上させることができました。

5 お問い合わせ先

福島県教育庁 義務教育課（TEL：024-521-7776）

福島県子どもの学習支援事業

1 事業概要

子どもの将来がその生まれ育った環境によって左右されることのないよう、また、貧困が世帯を越えて連鎖することのないよう、必要な環境整備と教育の機会均等を図るため、生活困窮等の世帯に属する子どもに対して、家庭訪問等による学習支援を行いました。

2 お問い合わせ先

福島県保健福祉部 社会福祉課（TEL：024-523-7323）



ふくしまの未来をひらく読書の力 プロジェクト

1 事業概要

中高校生を対象にしたビブリオバトル（お勧めの本を紹介しあう書評合戦）福島県大会を通して、広く県民に対し子どもの読書活動についての理解の促進のための普及活動・啓発活動を実施しました。

2 事業実施時期及び参加者数

令和元年11月9日（土） 中学生13名、高校生7名 観戦者200名

3 事業実施による効果

ビブリオバトルを通じて中高校生の読書活動への関心が高まっただけでなく、情報発信能力の育成・向上が図られ、読書の大切さを参加者全員で共有しました。

4 お問い合わせ先

福島県教育庁 社会教育課（TEL：024-521-7799）



未来を担う高校生海外研修・グローバル支援事業

1 事業概要

学校が教育活動の一環として実施する海外研修に参加する県内の県立高校生に対して、参加経費の一部を支援しました。

また、研修の成果等を発表してもらうため、教育委員会主催の英語プレゼンテーションコンテストを実施しました。

2 お問い合わせ先

福島県教育庁 高校教育課（TEL：024-521-7773）



ジャーナリストスクール開催事業

1 事業概要

未来を担う子どもたちが、ふるさと「ふくしま」において、復旧・復興に取り組んでいる個人、団体に対して取材し、新聞としてまとめ、情報を発信することにより、自分たちの住む「ふくしま」の良さを知るとともに、自分の将来の夢や希望を深く考えさせる機会を設けました。

2 事業実施時期

令和元年7月30日（火）

令和元年8月9日（金）～8月11日（日）

3 参加者数

小学生17名、中学生9名、高校生4名

新聞発表会参観者 約100名



4 事業実施による効果

子どもたちに、復興に取り組む被災者と直接的に関わる機会を提供し、自ら学び、考え、自分の言葉で発信する体験をさせることで、改めて震災に向き合い、復興に向かって踏みだそうとする自主性を支援することができました。

また、子どもたちが作成した新聞を県内外の避難者の方々に配布することにより、復興に向かって取り組む方々を知らせることができました。

さらに、作成した新聞を県内の各学校に配布することにより、同年代の子どもたちの活躍を知らせることができ、ふるさと「ふくしま」の現状や復興の取組を認識したり、福島の未来を考えたりする機会を提供することができました。

5 お問い合わせ先

福島県文化スポーツ局 生涯学習課（TEL：024-521-7404）





未来へチャレンジ！ふくしまスポーツ塾

1 事業概要

スポーツに対する意欲や関心が低い、又は運動が苦手
で本格的なスポーツ体験等への参加に抵抗を抱く子ども
たちに対し、スポーツを通じて身体を動かす楽しさを
伝える機会を提供しました。



2 実施時期及び参加者数

スポーツクライミング教室

令和元年5月26日（日）75名

スカイスports教室

令和元年10月6日（日）571名

バドミントン教室・車いすバドミントン教室

令和元年12月15日（日）80名

スケートボード教室

令和元年6月30日（日）40名



3 事業実施による効果

世界や国内、本県で活躍するトップアスリート等からスポーツの楽しさやこれまでの
経験を伝えてもらうことにより、子どもたちの将来の自分づくりに向けた夢や希望を育
むことができました。また、障がい者を対象とした車いすバドミントン教室を実施した
ことにより、健常者と障がい者が一緒にスポーツを楽しむ機会を提供することができま
した。

4 お問い合わせ先 福島県文化スポーツ局 スポーツ課（TEL：024-521-7995）

ふくしまからはじめよう。元気なふくしまっ子食環境整備事業

1 事業概要

学校給食における地場産物の活用率は、原発事故に伴う放射線の健康影響に関する不安
から大きく下がりましたが、全体では震災前に回復してきています。しかし、その度合い
は市町村によってばらつきがあり、地場産物の生産そのものが、難しい地域もあります。
そこで、小中学生を対象に地元の農水産物を活用した料理コンテストを開催し、入賞した
レシピを広く県民に発信することにより、子どもたちの食べる力の育成や地元の食材に対
する理解を深め、地場産物の活用率の向上につなげました。

2 お問い合わせ先 福島県教育庁 健康教育課（TEL：024-521-8409）



児童養護施設等入所児童自立支援事業

1 事業概要

児童養護施設や里親の家庭などで育ち、経済的な支援が得られない子どもたちについて、就職する際に必要な普通自動車運転免許取得の費用を補助し、子どもたちの自立のための支援を行いました。

2 お問い合わせ先

福島県子ども未来局 児童家庭課（TEL：024-521-8665）

未来に進もう！こどもの夢応援事業

1 事業概要

児童養護施設や里親の家庭などで育った子どもたちについて、経済的な理由により進学をあきらめることのないよう、進学やその後の生活に必要な費用の一部を給付金として給付し、希望する夢をかなえるための進路選択ができるよう支援しました。

2 お問い合わせ先

福島県子ども未来局 児童家庭課（TEL：024-521-8665）

地域で支える子育て推進事業

1 事業概要

子どもたちが夢や希望を持って成長することをサポートするため、子ども及び子育て家庭を支援する市町村や民間団体の取組に対して、助成を行いました。

2 お問い合わせ先

福島県子ども未来局 こども・青少年政策課（TEL：024-521-7198）

フードバンク等支援推進事業

1 事業概要

地域で子どもの健やかな成長を見守る場である子ども食堂へ食品を届けるなど、子どもの居場所を支援する団体に対して、助成を行いました。

2 お問い合わせ先

福島県子ども未来局 こども・青少年政策課（TEL：024-521-7187）

寄附をくださった皆様へのメッセージ

◆寄附をくださった方へのメッセージ◆

寄附をくださった方へ伝えたいことを自由に書いてください。
(いただいた内容は県ホームページなどへのせることがあります。)

いつも支援してくださってありがとうございます。
私はこの春から高校に入学しました。
コロナもあり、今後の生活をとても心配していましたが、学校がたくさんの方のサポートもあり、充実した日々を送れています。今は仲の良い友達も出来て毎日、部活も学業も頑張れています。こんな楽しい毎日が送れるのを、私たちに支援してくださっている皆様のおかげです。これからいろいろな事を学んで、私も人を助けることができる人間になりたいです！
いつも本当にありがとうございます。

学校 小学校・中学校・高校・その他()
学年 / 年生 ※お名前を書く必要はありません。

◆寄附をくださった方へのメッセージ◆

寄附をくださった方へ伝えたいことを自由に書いてください。
(いただいた内容は県ホームページなどへのせることがあります。)

寄附をしてくださってありがとうございます。寄附のおかげで無事高校にも合格し楽しい生活を送れています。中学校下はバレーをしていましたが、高校下は違うことをしてみたいと思い調理部に入部しました。あんな前のような生活が出来ているのは、寄附してくださった方のおかげなので、本当に感謝します。

学校 小学校・中学校・高校・その他()
学年 / 年生 ※お名前を書く必要はありません。

◆寄附をくださった方へのメッセージ◆

寄附をくださった方へ伝えたいことを自由に書いてください。
(いただいた内容は県ホームページなどへのせることがあります。)

色々ありがとうございます。
大切に利用させていただきます。

学校 小学校・中学校・高校・その他()
学年 3 年生 ※お名前を書く必要はありません。

◆寄附をくださった方へのメッセージ◆

寄附をくださった方へ伝えたいことを自由に書いてください。
(いただいた内容は県ホームページなどへのせることがあります。)

思いもしない原発事故。それによる避難。あんな前のような生活を失い、そして思いもよらない父との突然の別れ。その悲しみは急に小布くもなります。父が亡くなってから、祖父母の人格も変化し、母を責めて私と二人きりになってしまいました。15歳の時に頭がグルグルの日々でした。もう誰も信じられなく、将来も不安でした。そんな時に、この支援と知りあえ、まるで「生きていていいんだよ」と言われていたように思いました。誰も頼れないと思っていた私ですが、このように頑張る知らない方々に感謝しありがとうございます。支えと励みありがとうございます。

学校 小学校・中学校・高校・その他()
学年 / 年生 ※お名前を書く必要はありません。大宮市

寄附をくださった皆様へのメッセージ

◆寄附をくださった方へのメッセージ◆

寄附をくださった方へ伝えたいことを自由に書いてください。
(いただいた内容は県ホームページなどへのせることがあります。)

今年はコロナで大変な1年でしたが
高校生になり充実した学校生活を
送っています。自分で出来る事を増や
して 将来の夢へ繋げていきたいと
思います。
御支援していただき ありがとうございます
ました。

学校 小学校・中学校・高校・その他(特別支援学校)
学年 ___ / 年生 ※お名前を書く必要はありません。

◆寄附をくださった方へのメッセージ◆

寄附をくださった方へ伝えたいことを自由に書いてください。
(いただいた内容は県ホームページなどへのせることがあります。)

寄附金のおかげで子供たちが
不自由なく生活が出来て
本当に感謝しております。

学校 小学校・中学校・高校・その他()
学年 3 年生 ※お名前を書く必要はありません。

◆寄附をくださった方へのメッセージ◆

寄附をくださった方へ伝えたいことを自由に書いてください。
(いただいた内容は県ホームページなどへのせることがあります。)

震災から長きに渡り 御支援
ありがとうございます。お陰様で
卒業後は薬品製造の仕事に
内定をもらうことができました。
これからは地域社会に貢献して
いきたいと思っています。

学校 小学校・中学校・高校・その他()
学年 3 年生 ※お名前を書く必要はありません。

◆寄附をくださった方へのメッセージ◆

寄附をくださった方へ伝えたいことを自由に書いてください。
(いただいた内容は県ホームページなどへのせることがあります。)

震災当時、小学校6年生
だった私も大学4年生に
なり、来年からは夢だった
就労支援の仕事にします。
今は国家資格(精神保
健福祉士)の合格をめざし、
勉強に励んでおります。
私の未来・夢を応援して
くださり、ありがとうございます。
これからもがんばります。

学校 小学校・中学校・高校・その他(大学生)
学年 4 年生 ※お名前を書く必要はありません。

寄附をくださった皆様へのメッセージ

◆寄附をくださった方へのメッセージ◆

寄附をくださった方へ伝えたいことを自由に書いてください。
(いただいた内容は県ホームページなどへのせることがあります。)

東日本大震災から10年を迎えようとしており、
月・日と共に悲しみは、薄れて行くのよう
感じています。3.11の日を迎えると
今でもあの時の光景が思い出されてはりません
当時お母さんに孫の学校の友達や先生方に支えられて
心算に成長し16になりました。4月から高校生に
なり毎日元気に学校に通っています。
皆様からの支援金は孫の教育面に活用させて
頂いております。常に感謝の気持ちであります。
本当にありがとうございます。 祖母 妙

学校 小学校・中学校・高校・その他()
学年 / 1 年生 ※お名前を書く必要はありません。

◆寄附をくださった方へのメッセージ◆

寄附をくださった方へ伝えたいことを自由に書いてください。
(いただいた内容は県ホームページなどへのせることがあります。)

皆さまからの温かいご支援の
おかげで、高校を卒業することが
できました。
現在は、大学生となりました。
初めの一人暮らし、将来への不安等
あるようだが、頑張っているよう。
常に私たちに心を寄せ
いただいておりますことに感謝
いたします。

学校 小学校・中学校・高校・その他()
学年 / 1 年生 ※お名前を書く必要はありません。

◆寄附をくださった方へのメッセージ◆

寄附をくださった方へ伝えたいことを自由に書いてください。
(いただいた内容は県ホームページなどへのせることがあります。)

震災時に24名中1名の子ともが、
現在小学生になりました。当時走ら
ないことを少しづつ話しています。

みなさまからのご寄附に変えられて
一步一步すすめることができましたように思
います。

将来、みなさまからいただいた
暖かい気持ちを、次の世代に返して
いければと思っています。

学校 小学校・中学校・高校・その他 母)
学年 3 年生 ※お名前を書く必要はありません。

◆寄附をくださった方へのメッセージ◆

寄附をくださった方へ伝えたいことを自由に書いてください。
(いただいた内容は県ホームページなどへのせることがあります。)

おかげ様で元気に学校
に登校し、勉強が出来
ています。
いつもご支援いただき
ありがとうございます。
感謝の気持ちで
いっぱいです。

学校 小学校・中学校・高校・その他()
学年 / 5 年生 ※お名前を書く必要はありません。

寄附をくださった皆様へのメッセージ

◆寄附をくださった方へのメッセージ◆

寄附をくださった方へ伝えたいことを自由に書いてください。
(いただいた内容は県ホームページなどへのせることがあります。)

震災時、小学5年生だった息子が、今年専門学校を卒業し、おと夢だった、お寿司屋さんに就職し、寿司職人としての第一歩を踏み出すことができました。

本人の努力もありましたが、何よりたくさんの方々からの、真心のこもった御寄附があって、支援していただけたおかげです。

一人前の寿司職人になるにはまだまだ長い道のりですが、おかげで本当にありがとうございました。

学校 小学校・中学校・高校・その他(就職))
学年 〃年生 ※お名前を書く必要はありません。

◆寄附をくださった方へのメッセージ◆

寄附をくださった方へ伝えたいことを自由に書いてください。
(いただいた内容は県ホームページなどへのせることがあります。)

小3の夏からスポーツのバスケチームに所属しています。伝統のある強いチームで、毎週のように遠征や練習試合があり、お金がかかり、親の負担も大きいです。

みなさまの寄附のおかげで、スポーツ活動という貴重な時間を親子共々過ごしていることに感謝しています。ありがとうございます。がんばります!

学校 小学校・中学校・高校・その他()
学年 5年生 ※お名前を書く必要はありません。
この第一、中2の物も少しはバスケがはまっています。

◆寄附をくださった方へのメッセージ◆

寄附をくださった方へ伝えたいことを自由に書いてください。
(いただいた内容は県ホームページなどへのせることがあります。)

震災からもうおぼろしく十年が過ぎました。皆様からの温かい御支援のおかげで、日常生活には困る事はなく過ごしております。しかし、心から親としての子どもの心の悲しみは、計り得ないものがあります。

当時小学一年生だった孫は、高校二年に成長し、進路も大人になるにつれ、親の存在を考えると、私自身折息子の在りし日の高校生活や社会との関わりを語る様になっています。

コロナウイルスの影響で、学校や生活に制限が求められていますが、一刻も早く収束をして日常に戻ることを願っております。

学校 小学校・中学校・高校・その他()
学年 〃年生 ※お名前を書く必要はありません。

◆寄附をくださった方へのメッセージ◆

寄附をくださった方へ伝えたいことを自由に書いてください。
(いただいた内容は県ホームページなどへのせることがあります。)

震災から 来年の3月11日で10年が経ちます。私たち親子は、この10年間、たくさんの方々から支えられ、励まされながら生きてこれたのだと思っております。

あの日、夫が二度と帰ってこなかったあの日、不安と孤独、一人にいても息子を一人前にしなければという焦り、様々な思いがこの10年ありました。息子も、私に気遣い、あの日以来、夫のことを話さず振舞いました。

私も息子も、あの日のことから立ち直れないでいるのもおしれません。元気を取り戻さず、毎日を必死に過ごしているのもおしれません。

私たちを支えてくださっていることに、心から感謝し、これからも一生懸命に生きていきます。

学校 小学校・中学校・高校・その他()
学年 〃年生 ※お名前を書く必要はありません。



ふくしまから
はじめよう。

令和3年1月発行

福島県 こども未来局 こども・青少年政策課

〒960-8670 福島市杉妻町2番16号

電話：024-521-7198

E-mail:kodomoseisaku@pref.fukushima.lg.jp

福島県庁ホームページ

[ふくしまこども寄附金](#)

[検索](#)